

全国大学書道学会

会報

30

令和5年(2023)
6月1日発行
全国大学書道学会

創立六十五周年を迎えて

理事長 永由徳夫

会員の皆様には、日頃よりお力添えを賜り、洵にありがとうございます。お蔭を持ちまして、本会は創立六十五周年を迎えます。

今年度の「書道三学会」は、この記念の年に、本会会長・横田恭三先生にお骨折りいただき、跡見学園女子大学にて開催いたします。これまで国立大学を中心を持ち回りの形で担当してきた長い歴史の中で、私学が名実ともに旗艦校となって開催する画期的な大会であり、大変感慨深いものがあります。併催する会員書作展も、大会会場に隣接する新設の区民施設での展示となりますので、奮ってご出品くださいますようお願いいたします。

昨年度は、特別企画として「拓本鑑賞会」「書に関する講演会」を開催し、多数の皆様にご参加いただきました。今年度は、創立六十五周年記念企画として、五年ぶりに「台湾研修旅行」を実施いたします(七頁参照)。今回は、高雄から台北に向かって縦断する、通常なかなか組めない旅程ですので、万障お繰り合わせの上、ぜひご参加ください。

学会誌『大学書道研究』も、工夫を凝らし、内容の充実を図っています。第十六号では学術論文の他、講演録概要も掲載していますので、聴講叶わなかった皆様にもご一読いただき、臨場感を味わっていただければ幸いです。

そのほか、学会の維持・拡充を念頭に、「長期会員への優遇措置の導入」をはじめ、諸課題に取り組んでまいります。皆様におかれましては、引き続きご支援・ご助勢を賜りますようお願い申し上げます。

全国大学書道学会と清水比庵と

副会長 柿木原くみ

ほのぼのとむらさきにほふ朝ぼらけうぐひすの声山よりきこゆ

この歌は、昭和四十一年新春の宮中歌会始の儀に召人を拝命した、清水比庵の詠進歌である。比庵は同年十一月十九日に、東京学芸大学で開催された全国大学書道学会において講演を行なった。筆者には小論「清水比庵周辺の人々と自用印と」があり、比庵年譜上でこの講演のことは承知していた。

先日、故前田舜次郎先生(元跡見学園女子大学教授)の書籍整理に参上の折、書架に「書の歩み 清水比庵」と題する小冊子を発見、まさに比庵講演の筆記録で、新しい日本の文化の方向を示唆する貴重な内容を多く含んでいると思われるので、先生のお許しを得て一冊とした、と記されていた。また、書架には比庵随筆集『紅をもて』(昭和四十四年、求龍堂)もあり、文中「よいところを見付ける」には学芸大学での講演についての所感の記述がある。そして、四十一年十一月号の「書道グラフ」は比庵と桑鳩の作品特集号である。上田桑鳩は前田次郎先生の師である。何という偶然の連鎖であろうか。

ところで、比庵令孫清水固氏は、比庵佳境の会長として年二回会報を発行されており、筆者も寄稿させていただいているが、数年前、現日会第六代会長 故城所湖舟「清水比庵の故里―備中高梁 歌碑めぐり」と「清水比庵・第二のふるさと 備中笠岡を歩く」の二本の紀行文が、競書雑誌・凌雲から転載された。城所正先生(横浜国立大学名誉教授)も前田先生と同じ頃、筆者の本務校・相模女子大学で非常勤講師としてお力添えいただき、ご一緒に金沢や奈良などの学会に参加したことを懐かしく思い出している。

残念ながら先生方と比庵を語る機会はなかったけれど、比庵生誕一四〇年の本年、このような形で比庵の世界を共有できたことを感慨深く思う。

全国大学書道学会 第65回 令和5年度(東京)大会 第1次案内

下記の要領で、全国大学書道学会 第65回 令和5年度(東京)大会を開催します。ふるってご参加、研究発表のご応募、会員書作展へのご出品をいただきたくご案内申し上げます。

本会は本年度、創立65周年を迎えました。大会ではこれを記念し、海外から著名な研究者を招聘し、特別講演を開催する予定です。

- 1) 主 催 全国大学書道学会
- 2) 開催大学 跡見学園女子大学
- 3) 開催日 令和5(2023)年9月17日(日)
- 4) 大会会場 跡見学園女子大学 文京キャンパス 〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
- 5) 参加費 3,000円 * 準会員(大学院生)は2,000円(予定)
- 6) 日 程 (予定 * 発表件数により変動する場合があります。)
- | | |
|-------------|--------------------|
| 9:00 | 受付(2号館1階エントランス) |
| 9:30~10:30 | 開会式・総会(以下、M2605教室) |
| 10:30~12:00 | 研究発表(1) |
| 12:10~13:00 | 昼食 |
| 13:00~14:35 | 研究発表(2) |
| 14:50~16:00 | 大会記念講演 |
| 16:10 | 閉会 |

7) 研究発表の募集

大会における研究発表を希望する会員(準会員を含む)は、下記を確認の上、発表要旨を期日までに事務局長宛に郵送またはE-mail添付ファイルにてお送りください。内容は未発表のものに限ります。なお、共同研究の場合、発表者以外の方が会員でない場合も発表は可能です。研究発表は、発表用レジュメ・パワーポイント等を利用して行っていただきます。**発表用レジュメ(100部)は、9月8日(金)必着**で開催大学担当者宛に送付願います。

①発表要旨

- ・要旨には、研究の意義・ねらい、方法、結論等を簡潔に記してください。
- ・体裁：word文書A4標準設定、縦置き縦書き、上下2段組。1段は、縦33字、横23行、10.5ポイント。書式はホームページ(<http://all-shodo.jp>) > 「会員への情報」からもダウンロードできます。
- ・要旨は上段に記載し、最初の4行に、タイトル、所属機関名及び役職・発表者氏名(共同研究の場合は全員)を記し、本文は500字以上627字(19行)以内、全23行以内としてください。
- ・下段には、発表者氏名、郵便番号、住所、電話(FAX)番号、E-mailアドレスを付記してください。

②申込締切 7月10日(月)必着

- ③送付先 〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船6-1-3 鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科
電話 0467-33-8211 e-mail sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp
全国大学書道学会 事務局長 杉山 勇人 宛

8) 学会誌への投稿

- ・研究発表後に、学会誌へ投稿される場合には、連絡先を明記した別紙とともに、**完成原稿(3部)を11月10日(金)までに学術局長宛に送付してください。**
- ・大会における研究発表を経ずに、学会誌に研究論文を投稿される際は、上記①にならった論文要旨を8月31日(木)までに事務局長宛に送付・お申込みください。学術委員会の審議を経て、投稿の可否を連絡いたします。その上で、学会誌または学会ホームページ掲載の執筆要項を確認の上、**完成原稿(3部)を11月10日(金)までに学術局長宛に送付してください。**
- * 本年度大会において研究発表をされた方が、本年度発行の学会誌に投稿される場合は、再度の論文要旨の送付・投稿申し込みは必要ありません。なお、次年度以降に発行される学会誌に投稿される場合は、所定の期日までにあらためて論文要旨を送付し、投稿を申し込んでください。

9) 会員書作展

会員作品展を以下のように開催いたします。ふるってご出品ください。詳細は、同封別紙の出品要項をご覧ください。

(1) 会 期 令和5年9月13日(水)～9月20日(水) 9:00～20:00(土日祝日は9:00～17:00)
(初日は13:00から、最終日は12:00まで)

(2) 会 場 文京区立大塚地域活動センター
住所 東京都文京区大塚1-4-1(中央大学茗荷谷キャンパス内2階)
TEL 03-3947-2624

(3) 協 賛 費 7,000円(作品返送料を含む)

(4) 作品規格 同封別紙「全国大学書道学会会員書作展出品要項」でご確認ください。

(5) 内 容 自由

(6) 送付期日 **8月8日(火) 必着** ※協賛費を払込の上、作品、出品票を同封のこと

(7) 送 付 先 〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6 跡見学園女子大学文学部 横田 恭三 宛
TEL 048-478-3413(大会会場住所とは異なりますので、ご注意ください。)

*なお、協賛費は郵便振替口座払い込みとなります。今回同封の払込取扱票(赤色)を使い、年会費と併せて払い込んでください(過年度年会費未納の方は、別送の払込取扱票にて年会費とともにお支払いください)。

*出品作品は会期終了後、出品者に返送します(協賛費に返送料は含まれています)。

10) 大会記念講演 学会創立65周年記念特別講演 講師 祁小春 先生(中国人民大学教授)
演題 調整中

11) 三学会合同懇親会 ※本年度は実施いたしません。

12) 理事会【オンライン開催】

日 時 9月10日(日) 19:00～20:30 ※理事の皆様には別途ご連絡いたします。

13) 大会会場への交通・宿泊・昼食について

〈交通〉 東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」(出口2)より徒歩約2分

東京メトロ有楽町線「護国寺駅」(出口5)より徒歩約8分

〈宿泊・昼食〉各自ご手配願います。

【お問合せ】 ・研究発表、学会に関するお問い合わせ

全国大学書道学会事務局(杉山勇人/鎌倉女子大学/sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp/0467-33-8211)

・大会に関するお問い合わせ

開催大学担当(横田恭三/跡見学園女子大学/yokota@atomi.ac.jp/048-478-3413【文学部研究室】)

本学会と併せて、下記の学会等が開催されます。(参加費はそれぞれに必要です)

* 9月15日(金) 13:00～16:50 日本教育大学協会全国書道教育部門

* 9月16日(土) 9:30～16:10 全国大学書写書道教育学会

年会費納入のお願い

本学会の年会費について、払込取扱票(赤色)により、8月8日(火)までに納入くださるよう、お願いいたします。

なお、現在、理事会において満65歳以上の会員に対する会費優遇措置を検討しております。お手数ですが、払込取扱票の生年月記入欄へのご記入をお願いいたします。

〈昨年度まで完納されている会員〉

*年会費は、会員6,000円、準会員(大学院生)5,000円です。準会員は、大学院修了後、会員資格として取り扱います。(但し、大学院修了とともに退会を希望する場合は、必ず推薦者の了承のもと、事務局に退会を申し出ること。)

〈昨年度までに未納分がある会員〉

*未納分のある方には、その旨を記載した「払込取扱票」を別送しておりますので、こちらで本年度分と合わせて納入ください(本会報同封の払込取扱票は使用しないようお願いいたします)。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈全国大学書道学会 会計局〉 〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学芸術系 尾川研究室内

TEL/FAX 029-853-2717 E-mail ogawa@geijutsu.tsukuba.ac.jp

全国大学書道学会 特別企画 書に関する講演会 報告

専修大学 松尾 治

三月十一日(土) 十五時から相模女子大学十一号館教室において本年度第二回目の特別企画として跡見学園女子大学教授 横田恭三先生の講演会が開催された。新型コロナウイルス感染症も都内千人を切るようになり久しいが、前回同様、対面開催ゆえ事前申込制とし感染拡大防止につとめ無事終了できたのでここに報告する。会員同伴の高校生・大学生の参加もあり清新澗とした雰囲気の中、横田先生にはご用意いただいた資料とスライドの説明を頂いた。参加総数四十名超となり盛況であった。

演目は「新発見の文字資料く現地レポートあれこれ」とし九十分お話しいただいたあと、拓本(軸装・まくり)やレプリカなどを会場に運んで頂きその場で展観できた。「秦公一号大墓出土石磬刻字」、「里耶秦牘」、「亀山漢墓塞石刻銘」、「何君閣道摩崖」、「顔真卿書郭虚己墓誌銘・蓋」の五品、多くの眼福を得た。

お話は二〇〇七年北京に在外研究(一週間前後の旅を十四回)された際の文物との出会いをはじめ、中国研究者との交流についてなど多岐にわたった。近年コロナ禍で渡航できない状況も相俟って一つ一つのエピソードが羨ましく感じた。特に「秦石磬銘」の鮮明な線状を拓影で確認できたこと、「何君閣道摩崖」が宋代以来の再発見によるものであったことは印象深く拝聴した。恐らく参加した皆が「渡航制限緩和が待ち遠しい!」と思ったに違いない。後日、銀座での第四十回侯清社書展にて、故西林昭一先生の著録と中国での思い出の写真を拝見し、その思いは強くなった。



コロナ禍での海外文化研修オンラインの試み

大阪教育大学 出野 文 莉

コロナによる生活環境の変化が始まってから三年目になる。大学の授業も対面授業が減り、オンラインによる授業が増えた。また、五年間学生たちを帯同して中国天津市で行ってきた海外文化研修も中止された。海外文化研修をぜひとも継続していきたいという思いから考えついたのが、中国の書家や水墨画家に授業の動画を送っていただき、オンデマンドで学生たちに授業することであった。二〇二二年度は昨年度に引き続き第二回目の集中講義として、三名の中国の先生方に動画制作を依頼した。

曹柏崑先生は、天津師範大学名誉教授で宋代の米芾書の第一人者として知られる大変有名な書家である。曹先生には、篆・隸・行・草・楷の五つの書体について書き方の特徴や基本的な運筆について講義や実演をしていただいた。曹先生の書く一字一字の筆使いの動きによって書かれた見事な書に学生たちは心を奪われていたようだった。

劉珺先生は天津大学王学仲芸術研究所の准教授で新鋭の水墨画家である。劉先生からは水墨画の実技として、菊・桜・蘭と竹・パンダ・雀などの絵を実際に描きながら教えていただいた。墨の濃淡の使い分けや側筆などに慣れない学生には劉先生の水墨画の実演は非常に新鮮に映ったようである。

陳靖先生は山東芸術学院書法学院で書法と篆刻を教える書家である。陳先生からは山東省にある泰山刻石・崗山摩崖石刻・雲峰刻石・五鳳刻石・北朝仏教摩崖経などの刻石について画像を見せながら説明していただいた。学生たちにとって貴重な書鑑賞の体験となった。

中国の有名な書画家によって講義された中国の書法や水墨画の話を私が通訳して授業を進めた。私は以前、天津市少年宮で児童たちに書法を教えていたので、その経験も話した。学生たちは、自分たちの普段の考えと相違する視点から語られる書道の講話を聴く機会を得て、グローバルな環境に身を置いて自身の書道観を捉えなおす絶好の機会となったと思われる。

比田井天来揮毫「浅岡先生頌徳碑」の採拓と法帖制作

信州大学 小林 比出代

信州大学教育学部には、信州教育及び日本の近代教育に貢献された先生方の頌徳碑が四碑建立されている。「浅岡先生頌徳碑」と「正木先生碑銘」はその中の一碑である。「浅岡先生頌徳碑」で称えられる浅岡一は、一八八六（明治一九）年、長野県尋常師範学校に第四代校長として就任し、長野県教育界並びに長野県尋常師範学校の興隆に尽力、「信州教育」の基礎を築いた中核として、日本の近代教育の進展に貢献した人物である。この碑の撰文は、明治大正時代の教育者、思想家である杉浦重剛、揮毫は比田井天来に拠る。本碑揮毫の一九二一（大正十）年、天来五十歳、同年天来は『学書筌蹄』を刊行している。すなわち、本碑の揮毫年は天来自身の節目の年にもあたり、「浅岡先生頌徳碑」は近代日本書道史上看過できない名碑と考えられる。

本学では二〇一九（令和元）年に「信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業」の一環として、本碑（400 cm × 140 cm）の採拓をした。当該事業は、採拓に精通されている元木春峰堂堂主元木忍氏にご指導を、平成二六年度信州アカデミア（信大COC事業）地域志向教育支援事業で「正木先生碑銘」（長野県尋常師範学校第五代校長 正木直太郎の頌徳碑）の採拓を経験した卒業生達に協力を仰ぎながら、書写書道教育研究室の学生を中心に臨んだ。採拓後、参加した学生達から「出来上がった紙を教室で広げたときには言葉にできない感情が湧き上がりました。すごいな、自分たちでこれを作ったんだと、なんだか誇らしく思いました。」との感想が聞かれた。

そして、本碑建立から百年後の二〇二一（令和三）年、先の拓本の一つを、二〇二二年度在籍の学生達が法帖に仕立てた。完成後、「作業には難しさに伴いましたが、完成した時の感動も一入でした」との感想が寄せられた。

【引用資料】小林比出代「比田井天来揮毫「浅岡先生頌徳碑」の採拓——信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業報告——」（『信大言語教育 第30号』）／小林比出代「比田井天来揮毫「浅岡先生頌徳碑」拓本の法帖制作」（『研究紀要 第28集』）

「書道コース」の新設

―時代に即した書の継承と展開を目指して―

神戸松蔭女子学院大学 丸山果織

神戸松蔭女子学院大学は、神戸の街や港を望む高台に位置しています。キャンパスは緑に包まれ、その中にレンガ造りの学舎が点在しています。キャンパス内の各所には、「具体美術協会」をはじめとする戦後活躍した現代美術の芸術家たちの作品が配置され、「戦後の書」を研究テーマとしてきた筆者にとっては刺激的な勤務地です。

周知のとおり、兵庫県は戦後の書壇で活躍した多くの書家を輩出し、特に神戸は彼らの活躍の場でありました。現在でも書活動をする人口は多いのですが、「書の街」のイメージが強いとは言えません。現代の書を語る上で、神戸なくして語れないのではないかと考える筆者にとって、本学から「書の街神戸」を発信したく、書を学ぶ学生とともに七年間奮闘してまいりました。

兵庫県下で書道の教員免許を取得できる数少ない本学ですが、書道分野における知名度は低いものでした。しかし、書を学ぶために進学してきた学生たちには、近代以降の「神戸らしさ」と「自由さ」を感じ、何か新しい書の可能性を感じることができました。そのような中で、関西地域の高校生を対象とした書道コンクールや、最も神戸らしさがある元町の美しいギャラリーで書作品展を開催し、少しずつですがその存在を知っていただけるよう努力してまいりました。学生たちと様々な取り組みを行う中、神戸市や神戸市立博物館などと連携し、書道のワークショップやパフォーマンスなど書を通じて地域貢献を行う機会もいたできてまいりました。また、最近では百貨店との連携を通して「時代感」を探る取り組みも行っています。

従来の伝統的な書の学びを決して疎かにすることなく、しかし、書が時代に取り残されることもないよう継承していくために、伝統の名の上に胡坐をかくことのない模索を、学生たち自らが続けることを目標に「書道コース」を開設いたしました。昨今、「女子大」には逆風が強く、厳しさもありますが、現代社会において書を活かした多様な貢献ができる人材を育成してまいりたいと決意しております。



書作品展会場

展覧会報告 「古今和歌集を愛でる」

五島美術館 佐々木 佑 記

五島美術館（東京都世田谷区）では、令和五年四月一日（土）から五月七日（日）にかけて「館蔵 春の優品展―古今和歌集を愛でる―」を開催しました。五島美術館では現在、現存最古の『古今和歌集』の写本の断簡である重要文化財「高野切古今集（第一種）」や瓜文の雲母摺りが特徴的な重要文化財「寸松庵色紙」をはじめ、現在およそ二十幅の『古今和歌集』の古筆切を収蔵しています。そのほか重要文化財「大手鑑 筆陣臺戦」に貼られた断簡も複数あります。展示室1ではこれら古筆切のほか森田竹華（一九〇八―一九七七）の代表作や前衛書家として知られる大澤竹胎（一九〇二―一九五五）の仮名作家時代の散らし書きの優品などを展観しました。

展示室2では、当館が収蔵する国宝「源氏物語絵巻 鈴虫一・鈴虫二・夕霧・御法」の特別展示に関連して、御所蔵者のご協力により藤原定家自筆「源氏物語奥入断簡 胡蝶」（一幅・個人蔵）を展示初公開いたしました。本品は『源氏物語』の注釈書である藤原定家自筆の国宝「源氏物語奥入」（一帖・個人蔵）の一部として、令和四年四月二十日付『読売新聞』で報道された一幅です（詳細は、池田和臣氏「定家筆源氏物語奥入の新出断簡にちなんで」『中央大学文学部紀要』中央大学文学部、二〇二二年二月、五一―六三頁）。第二十帖「胡蝶」の注釈にあたるもので、定家独特の丸みを帯びた筆跡で唐時代・白居易の詩集『白氏文集』を踏まえた六行とともに「わがそのの梅のほつえに鶯のねになきぬべき恋もするかな」（『古今和歌集』巻第十一「恋歌二」四九八番）が二行で記されています。鎌倉時代における源氏物語研究の一端を示す貴重な資料であることは言うまでもなく、松平不昧（一七五一―一八一八）と田中親美（一八七五―一九七五）の箱書が添う軸装の本品は茶の湯の掛物としても珍重されたことが窺えます。図らずも展示室1のテーマ展示と併せて定家がしたための『古今和歌集』を愛でる貴重な機会となりました。



展覧会広報物（チラシ・表）

「全国大学書道学会創立六十五周年記念企画 台湾研修旅行」第一次案内

本年度の「特別企画」は全国大学書道学会創立六十五周年を記念して、台湾研修旅行を開催します。本学会では六十周年の折も台北を中心とした台湾研修旅行（二泊三日）を実施しましたが、今回は台北だけでなく、台湾南部の高雄から台北までを縦断する三泊四日の研修旅行を企画しました。

その概略を説明しますと、まず成田空港から空路高雄へ入ります。高雄市内を散策後に、屋外アートや最新ショップが軒を連ねる倉庫街・駁二芸術特区、高雄最大の夜市で、海鮮も豊富な六合国際観光夜市を散策し、台南へ移動します。

台南は台湾きつての古都です。当地にある台南大学では書道分野の人材を養成し、国際交流も盛んに行われています。日本語の通じる教師陣や学生と交流する予定です。

台湾中部では嘉義県太保市に、二〇一五年に開院した國立故宮博物院南院を参観します。「アジア芸術文化博物館」と位置づけられています。ここでは滞在日に開催されている書道に関する特別展を鑑賞する予定です。嘉義から台北へは、日本の技術が導入された新幹線を使って移動します。

台北では國立故宮博物院で書画碑帖、中央研究院内歴史文物陳列館では青銅器、漢簡、碑帖を中心に鑑賞します。目下特別閲覧も交渉中です。また、収蔵家の林宗毅の庭園である林本源園邸、書道関連書籍、文房四宝の専門店である勝大荘や蕙風堂にも立ち寄り、「千と千尋の神隠し」のモデルと言われている、台湾北部にあるレトロな九份（きふ）も観光します。小籠包で有名な鼎泰豊にも立ち寄る予定です。

今回の旅行にあたっては、今回の第一次案内で参加希望者を把握して旅行団の規模を確定させます。そして、本年八月頃に第二次案内を配付して、参加者、旅程、料金を確定し、本年九月に開催される全国大学書道学会大会の総会でご報告します。なお、研修旅行については、学会ホームページ上でも情報を随時公開しますので、適宜御覧おき下さい。みなさまのご参加をお待ちしております。

時

令和五年十二月二十七日（水）～十二月三十日（土） 三泊四日

旅程

（今後変更になることもあります）

十二月二十七日 成田空港発、高雄空港着。駁二芸術特区、六合国際観光夜市を散策。台南泊。

十二月二十八日 台南大学視察、國立故宮博物院南院にて研修、蕙風堂でお買い物。台北泊。

十二月二十九日 國立故宮博物院にて研修。勝大荘でお買い物。九份観光。台北泊。

十二月 三十日 中央研究院、林本源園邸にて研修。免税店でお買い物。台北松山空港発、羽田空港着。

費用

一七五、二〇〇円

※燃料サーチャージの高下により、今後多少の費用の変更が見込まれます。

参加申込

今回の旅行は会員限定です。下記フォームより、令和五年七月七日（金）までに申し込みをお願いします。

【全国大学書道学会創立65周年記念企画 台湾研修旅行参加登録用 Google フォーム】
<https://forms.gle/FdE2EX1UFTJmyr6>

※フォームでのお申し込みが難しい場合、下記のお問い合わせ先に

メールか、葉書にて、次の情報をお送りください。

・ご氏名（漢字とひらがな）、メールアドレス、
常時連絡がとれる電話番号

お問い合わせ先

二五二一〇三八三

神奈川県相模原市南区文京二一一一

相模女子大学 一〇号館

全国大学書道学会編集局

下田 章平 宛

s.shimoda@isc.sagami-wu.ac.jp



参加登録用 Google フォーム

全国大学書道学会新入会員（準会員）用会員票 入会申込書

どちらかに○〔 会 員・準 会 員 〕

〔 新規入会・再 入 会 〕

申込年月日

年

月

日

郵便番号 〒 —	
住 所（自宅）	
帰省先（大学院生のみ記入） 〒 —	
ふりがな 氏 名	雅号
生年月日（西暦）	年 月 日
電話（自宅）	（ ）
FAX（自宅）	（ ）
E-mail 自宅・勤務先	
所属機関	名 称
	会 員：名誉教授 教授 准教授 講師 助教 助手 非常勤講師 教諭 その他（ ）
	準会員：大学院 博士課程 修士課程
所在地（所属機関） 〒 —	
電話（所属機関） （ ）	
FAX（所属機関） （ ）	
推薦者（会員）氏名	
推薦理由	
本会規約第2条に定めた資格（国公立大学・短期大学・付属学校・専門学校の書道担当教員、及び元会員）に該当する方は、推薦者及び推薦理由の記入は不要です。	

* ご記入いただいた住所・氏名等の情報は、本学会事務のために利用し、そのほかの目的では利用しません。

事務局 鎌倉女子大学短期大学部 杉山勇人 宛に 郵送・PDF 送付をお願いします。

送付先：〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船6-1-3 鎌倉女子大学短期大学部
 全国大学書道学会事務局 杉山勇人
 E-mail：sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp